



進級して、初めは新しい保育室にドキドキしながら入ってきていた子どもたちも、今では「おはよう」と元気に入ってきてくれるようになりました。
今年度一年、たくさんさんの経験を通して楽しく過ごしていきたいと思ひます。よろしくお願ひします。

〜四歳児として大切にしていきたいこと〜

○大人よりも友達が大事になる時期

四歳児になると大人に甘える心地よさから友達と一緒に過ごすことが楽しい・面白いと感じるようになります。安心できる友達関係を築いていけるよう、また、自分とは違う考えを持つ友達の存在を理解し、認め合ひながら過ごせるようにしていきたいと思ひます。

○想像と現実の世界をつなげ、心躍らせる

友達と一緒に絵本や物語などの想像の世界を共有することがより楽しくなつてきて、現実には起きる出来事と結びつけて子どもたちだけの物語が作られていきます。子どもたちがワクワクドキドキ心を動かす体験を大切にしたいと思ひます。

○集団における自分の位置に敏感になる時期

「できない自分」を意識するようになってきて「勝ち負け」に対するこだわりが出てきたり、「○○ちゃんより下手だ」とやめてしまうことが出てくるのが四歳児です。「できること」を褒めるだけでなく、「できない姿」も受け止め、子どもたちが自ら葛藤を乗り越えていけるように丁寧に関わっていききたいと思ひます。



1組



2組

「おべんともって おはなみに」行ってきました☆

「おべんともって おはなみに」の絵本をすみれ組の時から見て、「お花見に行きたい！」と言っていた子どもたち。桜が満開の時に運動公園へお花見に行き、落ちていた桜の花を集めたり、絵本に出てくるように「ひもでんしゃ」をして遊んできました。「私はしゃけおにぎりにするよ！」などとずっと楽しみにしていたおうちの方の手作りのおにぎりをみんなで桜の木の下で食べ、とても楽しいお花見となりました。手作りおにぎりのご協力、ありがとうございました！



それぞれの部屋の中にも桜の木を…



1組

絵本を見て、「お部屋にも桜の木作ろう！」と言って積み木を積み始めました。「もっとも〜っと高くしよう！」と言って、最後には脚立に乗ってみんなで協力して高い桜の木が完成しました。桜の花びらの形に画用紙を切って花も完成し、絵本に出てくるように『きっこざくら』という札もつけて「できた〜!!」「可愛い！」と喜んでいた子どもたち。桜の木が出来ると「ここでもお花見したいね」という意見が上がり、絵本を見ながら「お花見するには何がいる?」「おにぎりがある!」「絵本には、はちみつジュースが出てくるよね」と考えながらラキューで道具を作り、お花見ごっこも楽しみました。友達と共に想像の世界を広げていく経験をこれからもたくさんして楽しみたいと思ひます。



2組

桜の満開が待ち遠しい子どもたちは、園庭から見える運動公園の桜や身近で見つけた桜の事を嬉しそうに話していました。「お部屋にも満開の桜があったらいいな」と早速積み木で桜の木を作り始め、高く積みあがった木を見上げ、「大きくなった〜」と友達と顔を見合わせ喜んでいました。まるで自分たちが大きくなったことと重ねているようで、嬉しい気持ちになりました。桜の花は折り紙で飾り切りに挑戦。三角に折った角をはさみで切り、広げてビックリ! 「こんなになった〜」と驚きと面白さが同時に湧き上がる感じが感じられました。切ってみるたびに模様が変わる面白さに「もう一回やってみよう」と何度も作っていました。桜の花が沢山出来上がり、とても華やかな保育室になりましたよ。飾り切りの切れ端は桜吹雪に変身しましたよ。桜の木の下では、ラキューで作ったきっこちゃんといたちのちいといがお花見を楽しんでいますよ。



大きなこいのぼりを作ったよ!!

園庭にあがったこいのぼりを見て、「お部屋にもこいのぼりあったらいいよね!」「こいのぼり作りたい!!」と言って、ゆり1, 2組合同で大きなこいのぼりを作りました。うろこは折り紙を三角や四角に折って飾り切りをし、金色や銀色を含めたカラフルな色の様々な形のうろこになりました。「ここに貼ろうかな〜」と自分の貼りたい場所に貼ってとても素敵なこいのぼりが完成し、廊下に飾った時は子ども達も大喜びでした!

こいのぼりをあげる『こどもの日』は子どもの健やかな成長を願う日ですね。こいのぼりを飾る由来にあるように困難なこと、頑張らなければいけない場でも楽しくみんなで乗り越えていけるといいなと思ひます。

